

「今」

何か欲しいものはある？」
7歳の誕生日が間近に迫った姪に尋ねると「何もいらないよ」と、思いがけない言葉が返ってきました。欲というものが無いのだろうか、驚いたのと同時に、自分が同じ年ごろにはあれやこれやとほしいものだらけであったなあと、恥ずかしい記憶が思い出されました。

仏教には、少欲知足しょうよくちそくという教えがあります。欲望はできるだけ少なくし、今あるものに満足し感謝しましょうという教えです。しかしながら、生きていれば欲しいものはたくさんでてきま

世界の約63億人もの人々をもし仮に、100人の村に縮めたら、そこに住む人々は一体どのような生活状況に置かれるかが書かれています。

「100人のうち75人は食べ物の蓄えがあり、雨風をしのぐところがあります。でもあとの25人はそうではありません」「100人のうち20人は死にません」「100人のうち1人は死にそうです」「もしもあなたが空爆や襲撃、地雷による殺戮ころそくや武装集団からの暴行におびえていなければそうでない20人より恵まれています」

ここに書かれていることを目にして



充分と思ひ

日々暮らす



Never take the tranquility of today for granted; be grateful for it always.

揮毫 大本山善導寺 第67世法主 阿川文正台下

す。お金や地位、名譽、若さなど、細かい願望まで数えればキリがありません。しかもそれら全てを手に入れることなどできるわけがないのです。

これを心得ていないと今度は手に入られないことに対して怒りや妬みといった心を生じさせ、最終的には自身自身の心を苦しませるようになります。お釈迦さまはこのようなことに心を悩ますのであれば、今あるものに満足し感謝して生きるほうがずっと心は健康的だとお示しくされました。

「世界がもし100人の村だったら」という本があります。この本には

も、現在の日本で生きる私たちには、なかなか実感は湧きにくいものですが、まずそのような事実を知り、考えることが大事なのです。そうすれば、朝、目が覚め、仕事や学校に行き、1日を不自由なく過ごし、夜になれば眠りに就く。こういった「あたりまえ」だと思っている生活は、実は私たちが思っている以上に有難いことだと気付くのではないのでしょうか。普段何気なく過ごしている日常に感謝の気持ちをもつて生活したいものです。

(富城県仙台市 充国寺 三浦宏純)